

# ひだまり

校長 小林 理人  
特別支援コーディネーター  
プラタナス

NO. 2

特別支援だより「ひだまり」では、共生社会を生きる子供たちに寄り添うための視点や方法、大人の姿勢を、学校の取り組みを紹介しながら、子供に向き合うと直面する「こうしたらいいんだよなー(タテマエ)」「でも実際はうまくはいかない現実(ホンネ)」に注目して保護者の皆様と考えていければと思います。

## 夏休み＝規則正しい生活

睡眠不足、運動不足、栄養不足は、子供たちの成長、心の安定に大きく影響があると言われています。大人も同じですね。子供たちが待ちに待った夏休みが始まります。つつい夜更かしをして翌日に影響があったり、暑すぎて室内遊びしかできず運動不足になったり…。その結果、宿題を頑張れない等に陥ってしまう子供も毎年ちらほら見かけます。規則正しい生活のもと、やりたいことをやりたいタイミングでできるように、エネルギーを貯められるといいですね。

## ホンネの気持ち

でも・・・🌧️せっかくの長期休みなものだから、しっかり休んでほしいとも思います。また、暗い早朝から虫採りに行く、夜中に星空を観察してみる、など、“規則正しい”リズムのある学校がある期間では、なかなかできないことなどに取り組んでほしい、とも思います。

宿題に関しては、「まだ遊んでるの?!宿題は?」「今からやろうとしてたところだよ。うるさいな!」という気分の良くないやりとりは避けたいものですよね。保護者の方々も、夏休み最後になって慌てて宿題をやったり、提出が遅れたり、という経験も少なからずあるかもしれませんね。でもその代わりに、たっぷり時間をかけて、かけがえのない経験をさせているはずですよ。先日、教員の研修で、講師の先生がはっとするようなことをおっしゃっていました。「学校は、早くできること、正確にできることばかり求められる」と。ドキッとした瞬間でした。

## 「自分で選ぶ」「自分で決める」がポイント

子供は、0歳でも自分の意志があります。今寝たい、今排泄したい、今食べたい…私たち大人はそれを尊重してきたはずです。それがいつしか、思うように子供が動かないときには、叱ってしまうこともあります（そして後から後悔…）。子供が自ら考えて行動してくれたらどんなによいでしょうか。特に夏休みは、子供が目の前にいます。

そこでチャレンジしてみたいのが、「子供に任せてみる」ということです。子供も一人の人間、彼らなりの意志やタイミングがあります。「まだやってないの?!」と言わず、「宿題がうまくいっていないみたいだけど、どうしたいの? どうしたらうまくいきそう? よかったら相談にのるよ」と話しかけ、子供からのヘルプを待ちます。

助言や助けを求められたら、親としてできることを伝え、求められなかったらそっと見守ります。それが、彼らの「自分で選んだ」「自分で決めた」「だからできた」という成功体験やエネルギーにつながります。アドラー心理学では、「アドバイスをするという事は、相手にその力がないという前提である」という立場をとるそうです。

もし宿題が最後までできなかつたら?大丈夫です。教員は、子供たちの回り道もよい経験ととらえ、一人一人の子供と話し合いながら解決に向けて、子供自らが手立てを導き出し、行動にうつせるように手助けをします。そのようにして、一人一人の子供の生きる力を育てていこうとしています。

おすすめの本…勉強だけでは測れない、非認知能力について

～子供だけでなく、大人の自己肯定感も大切に～

「非認知能力」の育て方～心の強い幸せな子になる0～10歳の家庭教育～

### 国立二小の相談・支援体制

☆特別支援教育コーディネーター

☆スクールカウンセラー

(今年度は毎週火曜日に勤務しています。)

☆スクールソーシャルワーカー

(学校以外の支援方法について相談ができます。)

☆プラタナス (子供の実態や苦手さに合わせた指導を行います)

☆はばたき教室 (週1回個別・小集団での専門的な指導を受けます。主に社会性の指導をおこなう場です。)

☆スマイリースタッフ (各学級に入り、学習のサポートをします。)

☆校内委員会 (教職員全体で、校内の様々な子供たちのことを話し合い、支援方法などを考えます。)

ご相談は、特別支援教育コーディネーターまでお気軽にご連絡ください。